



2015年8月18日～20日、コープおおいたは組合員・役職員が福島県の被災地を視察する「親子・ふくしま訪問ツアー」を実施しました。コープふくしまの協力を得て、福島県の現状を学び、次の世代へ震災・原発事故の記憶をつなぐコープおおいたの取り組みを取材しました。

仮設住宅への訪問では、子どもたちが一人ずつ大分県と福島県ゆかりの唱歌を発表。歌に合わせてみんなで体を動かしました。

組織として継続した 支援に取り組むために

コープおおいたは、東日本大震災の発災・東京電力福島第一原子力発電所の事故直後からコープふくしまと連携を取り、復興支援の活動を続けています。

「福島県は地震、津波、そして原発事故による放射能汚染の問題で、いまだに大きな被害を受けています。コープおおいたでは、発災後に行なった支援をきっかけに、それを継続していくことを決め、復興の状況に合わせて活動の内容を変化させてきました」

コープおおいた 常務理事・管理支援本部長の山村克己やまむらかつみさんは、同生協が取り組む支援活動についてそう話します。

職員を派遣し福島県での視察交流を続けるほか、大分県にコープふくしまの理事や役職員を招き、被災地の復興の進捗、放射能汚染の問題についての学習会を開催。また、被災地の小学校や仮設住宅からの要望に応え、扇風機やはんでんなどを寄贈しています。コープおおいたの店舗や共同購入（宅配）のカタログでは、福島県産品を紹介し、組合員に買い支える支援を呼

支援の気持ちを 子どもたちへつなぐ

コープおおいた コープふくしま



仮設住宅にお住まいの方々とコープおおいたの皆さん。交流はこれからも続いていきます。



コープおおいた
常務理事・管理支援本部長
山村克己さん

び掛けています。

そして8月18日から3日間行なわれた「親子・ふくしま訪問ツアー」。これは次の世代と共にこれからの支援を考えたいという思いから企画されたもので、昨年に引き続き今年で2回目になります。主に組合員親子を参加対象としていますが、初めての福島訪問となる職員も参加しています。

「視察に行った参加者は、帰ってから報告会を行ないます。そこでは『実際に見ると人生観が変わった。福島を応援し続けたい』という感想が多く出されるのです。組織として継続した支援に取り組むために、被災地の現状を知らない職員にも順番に視察に参加してもらっています」(山村常務理事)



生産者の高橋勘重さんの果樹園で、もぎたての桃がぶり。あちこちで笑顔が見られました。

子どもたちも福島で暮らす方々と交流

「親子・ふくしま訪問ツアー」では、相馬郡の新地町内の小学校の子どもたち、福島市の桃の生産者や仮設住宅にお住まいの方々との交流の時間を設けています。

19日に交流した新地町内の小学生は、2015年7月に行なわれた「ふくしまつ子応援プロジェクト」*で大分県を訪れ、コープおおいたの組合員・役職員の家にホームステイをした子どもたちです。「この間はありがとう」「また会えてうれしい」「来年も遊びにおいで」と1カ月ぶりの再会を喜ぶ声が聞かれました。

最終日の20日は、原発事故の影響で避難している飯館村の皆さんが



富岡駅近くに積まれた除染廃棄物の山(写真奥)を見つめる参加者。

暮らす仮設住宅での交流です。コープふくしまがサロン活動を行なっているこの仮設住宅は、70歳以上の高齢者が多く、子どもは1人しかいません。

おじいちゃん、おばあちゃんに話し掛けられ、会場の集会室ではコープおおいたの子どもたちの笑い声が上がります。子どもたちが一生懸命練習した唱歌の発表には、「仮設住宅には子どもが少ないから、雰囲気明るくなつてうれしい。やっぱり子どもたちが来てくれると元気が出るね」と、笑顔を見せる方もいました。

「被災者に寄り添って復興を応援していく」

3人の小さいお子さんを連れた組合員は、「九州に住んでいて福島県から遠いので、という理由で無関心になりたくないし、子どもたちにも震災のことを忘れないでほしいと思つて訪問を決めました。これから先、どのような災害が起こるか分かりませんが、子どもたちはまだ小さいので理解は難しいかもしれませんが、福島を訪れて話を聞いた経験が何かの糧になつてくれればと思います」と参加の理由を教えてくださいました。

山村常務理事は「コープおお



コープおおいた・組合員理事の後藤孝代さんと再会した新地町内の小学生。

たは「被災者に寄り添って」をキーワードに支援活動に取り組みます。これからもコープふくしまの皆さんのご協力をいただきながら、学び合うこと、情報を発信し合うこと、そして交流し続けることで、より深いつながりをつくっていきたくと考えています」と今後の支援について話します。

今回の交流で次世代へ復興支援の思いをつなぎ、継続した支援の必要性を伝えたコープおおいた。「親子・ふくしま訪問ツアー」をはじめ、福島県を応援するさまざまな取り組みは来年以降も続ける予定です。

* 大分県社会福祉協議会やエフコープ(福岡県)、コープおおいたなどが中心となり、福島県の子どもたちを福岡県と大分県に招待し、ホームステイをしたり自然に親しむなどの体験プロジェクトに取り組んでいる。